

第四部 U-15 ジュニアラグビー競技規則 JAPAN RUGBY FOOTBALL UNION 2015

はじめに

本年度、(公財)日本ラグビーフットボール協会では13歳-15歳時期(以下「U-15」という。)の中学生プレーヤーに適用する「U-15 ジュニアラグビー競技規則」を改定しました。

「競技規則に関する背景・趣旨」

(公財)日本ラグビーフットボール協会は、ワールドラグビー(以下「WR」)が目指すラグビーフットボール競技の健全な発展のための方向性を見据え、WRが定めるラグビーフットボール競技規則に照らし、日本国内独自で適用しているU-15 ジュニアラグビー競技規則が、その整合性を担保できるよう継続的に検討しています。当然なことですが、U-15世代の中学生のラグビープレーヤーにとって最良、かつ安全性を確保できることを原則として、より良いU-15 ジュニアラグビー競技の実現を目指し、同時にU-12(12歳以下)のミニラグビーからU-15のジュニアラグビー、そして高校生以上のフルラグビーという年代間の整合性についても、現状に照らして継続的に検証・検討しています。

同時に、本年度版から本U-15 ジュニアラグビー競技規則では、12人制によるラグビーフットボール競技に加えて、U-15中学生世代が安全に7人制ラグビーフットボール競技を行えるよう定義いたしました。

「本競技規則の記載方法の変更とWR競技規則との相関」

U-15のジュニアラグビー競技規則は、WR競技規則に相違する箇所(読み替える箇所)のみを記載しており、項目記号も原則としてWR競技規則に準拠しています。

WR競技規則に該当する項目がないため、U-15オリジナルとして追加している項目は、WR競技規則の項目の後のアルファベット記号を使用し、〔Original〕として表記し、加えて○囲みの数字〕で記載しています。

また、7人制競技において、本U-15 ジュニアラグビー競技規則を適用する箇所は、【7人制共通】と記載しています。

繰り返しますが、相違箇所(読み替え箇所)について、WR競技規則(含む「19歳未満標準競技規則」)。加えて、7人制競技の項目では「7人制標準競技規則」の項目を含む)の項目記号をそのまま使用していますが、それ以外のWR競技規則をそのまま適用する箇所は本U-15 ジュニアラグビー競技規則には記載されていません。

このため、記載のないそれ以外の箇所は、WR競技規則(含む「19歳未満標準

準競技規則』。7人制競技では『7人制標準競技規則』の項目を含む)を参照しなければならないことに留意して下さい。

「基本原則」

13歳 - 15歳時期(以下総称で使用する場合は「U-15」という。)の中学生プレーヤーの試合に適用するU-15ジュニアラグビーの競技規則は、WRが定める「WR競技規則2015(含む『19歳未満標準競技規則』。7人制競技においては『7人制標準競技規則』を含む)」に準拠する。同時に(公財)日本ラグビーフットボール協会の定める高専、高校以下のための国内特別競技規則に関してはその趣旨を認識し準拠する。

その中でU-15に適用する独自の競技規則は、「本U-15ジュニアラグビー競技規則2015」で規定する。

「改正ポイント」

本年度の主な改正ポイントは以下の通りである。

1) 「WR競技規則2015」における「試験実施ルール」の適用

U-15ジュニアラグビー競技規則では、試験実施ルールについては適用除外としてきたが、今年度から原則として適用する。

2) 「第20条 20-1 (g) スクラムの形成」の本競技規則での記載削除

スクラムの組み方の手順は「WR競技規則」に準拠することとした為、U-15ジュニアラグビー競技規則における第20条「スクラムの形成」20-1 (g) の記載は削除する。

3) 「7人制競技規則」の記載

U-15ジュニアラグビー競技規則において7人制ラグビーの標準競技規則を定める。

4) 「U-15ジュニアラグビー中学生安全競技基準」の運用徹底

本競技規則に加えて、掲題の「U-15ジュニアラグビー中学生安全競技基準」等、同世代特有の基準、規程の運用を徹底する。

5) 「適用(含む改定)時期」の明確化

本競技規則は、「WR競技規則」の改定時期に出来る限り合致するよう検討し、次年度以降の適用(及び改定)時期は、原則として毎年4月1日とする。

試合前

第3条 プレーヤーの人数

定義

「チーム A Team」とは、試合を開始する 12 名のプレーヤーと、交替 / 入替えとして認められているプレーヤーからなる。

「交替のプレーヤー Replacement」負傷した味方のプレーヤーと交替する。

「入替えのプレーヤー Substitute」戦術的理由で味方のプレーヤーと入替わるプレーヤー

3.1 競技区域における、プレーヤーの最大人数

両チームとも、プレー中に競技区域内にいるプレーヤーの人数は、12 名を超えてはならない。

3.3 12 名未満のプレーヤーによる試合

1 チームにつき 12 名より少ないプレーヤーによる試合は、試合途中において怪我や病気により出場選手が 11 名までは許可される。但し、チームは、試合開始時点では 12 名の健康な選手を揃えていなければならない。

例外：但し、7 人制の試合は例外とし、この場合は「7 人制標準競技規則」による。

3.4 交替/入替えのプレーヤーとして指定されたプレーヤー

(a) (b) (d) 交替 / 入替えのプレーヤーの数は 10 名以内とする。

また、試合途中において登録されたりザーブプレーヤー全員の交代を認める。

3.5 フロントローとして適切に訓練され、かつ経験のあるプレーヤー 【7 人制共通】

(a) チームは、フロントローとして適切に訓練され、かつ経験のあるプレーヤーを 5 名以上含めなければならない。

3.10 一時的交替と応急処置 【7 人制共通】

(a) 出血の有無に関わらず、プレーヤーが負傷し応急処置、或いは医師の治療を受ける必要があると判断され、競技区域からプレーヤーが出たときには、一時的交替を認める。一時的に交替されたプレーヤーが競技区域外に出て経過時間 15 分以内にフィールドオブプレーに戻らない場合、一時的交替をしたプレーヤーは正式交替となる。元の一時的に交替されたプレーヤーはフィールドオブプレーに戻ってはならない。

注意事項

レフリーまたは競技責任者は、プレーヤーが負傷した場合は、そのプレーヤーの安全の確保を最優先し、直ちに応急処置、或いは医師の治療を受けるよう指導する。

**3.12 入れ替わったプレーヤーが再度試合に加わること【7人制共通】
＝19歳未満標準競技規則＝**

入れ替わったプレーヤーは、他にリザーブ選手がいない場合には、負傷したプレーヤーの交替として、その試合に再び加わることができる。

3.14 三地域協会に適用を委ねられる特別ルール【Original①】【7人制共通】

三地域協会の事前の承認の下、大会（試合）を主催するか管轄する各協会の決定により、登録プレーヤー、交替人数等について規定（ローカル）することができる。但し、本事項はその地域の実情に合わせて特例として認めるものであり、いかなる場合でもプレーヤーの安全を考慮した決定でなければならない。また、本競技規則に対してローカルルールを優先することはできない。

3.15 エージ制カテゴリー【Original②】【7人制共通】

U-15（13歳－15歳時期）のプレーヤーに適用する本競技規則では、以下のエージ制カテゴリーを採用する。

- ・U-15カテゴリーとは、中学2、3年生のプレーヤーで構成するチーム、および同チームによる試合
- ・U-14カテゴリーとは、中学1、2年生のプレーヤーで構成するチーム、および同チームによる試合
- ・U-13カテゴリーとは、中学1年生のみのプレーヤーで構成するチーム、および同チームによる試合

3.16 12人制ラグビー競技のポジションと呼称【Original③】

〔ポジション配置〕U-15のジュニアラグビー競技規則における12人制ジュニアラグビーのポジションは、フロントロー3名、セカンドロー2名、スクラムハーフ1名、スタンドオフ1名、センター2名、ウイング2名、フルバック1名からなる。

〔ポジションの呼称〕呼称は以下の通りとする。



第4条 プレーヤーの服装

4.1 追加着用を認めるもの（義務）【7人制共通】

WRが本項目で追加着用を認めるものの内、以下のものは装着・装用を義務とする。

- (f) マウスガード、歯を保護するもの
- (g) WR競技に関する規定第12条に適合するWRマークが付いたヘッドギア

注意事項

U-13、U-14カテゴリーで、永久歯に生え変わっていない乳歯のあるプレーヤー、及びU-15カテゴリーを含めて歯科矯正などを行っているプレーヤーについて、マウスガード装着を推進している本協会・メディカル委員会・歯科部会では、マウスガードを装着することによる安全対策とリスク回避が重要であるとの見解である。同時に可能な限りマウスガードは専門の歯科医で作成することを推奨する。

第5条 試合時間

5.1 試合時間

- (a) U-15カテゴリーの試合時間は40分以内に加えて、失われた時間とする。試合は、競技時間20分以内ずつ前後半に分けて行う。
- (b) U-14、U-13カテゴリーの試合時間は30分以内に加えて、失われた時間とする。試合は、競技時間15分以内ずつ前後半に分けて行う。

- (c) ただし、U-14 カテゴリーの試合で、双方のチームの出場プレーヤーが全員中学2年生の場合は特例としてU-15 カテゴリーの試合時間を適用することができる。

5.2 ハーフタイム

ハーフタイム後、サイドを交換する。休憩時間は5分以内とする。

5.6 延長時間【7人制共通】

トーナメントで引き分けの場合でも、試合を延長してはならない。

5.7 その他、時間に関する規則

(h) 【Original ④】 1日2試合実施する場合の試合時間

- (1) U-15 カテゴリーでは、試合時間は34分以内に加えて、失われた時間とする。試合は、競技時間17分ずつ前後半で分けて行う。
- (2) U-14、U-13 カテゴリーでは、試合時間は1日1試合の場合と同様に30分以内に加えて、失われた時間とする。競技時間は15分ずつ前後半で分けて行う。
- (3) U-14 カテゴリーの試合で、双方のチームの出場プレーヤーが全員中学2年生の場合は特例としてU-15 カテゴリーの試合時間を適用することができる。

(i) 【Original ⑤】 1日あたりの試合制限

- (1) 中学3年生、中学2年生のプレーヤーは、1日70分を超える試合を行ってはならない。
- (2) 中学1年生のプレーヤーは、1日60分を超える試合を行ってはならない。
- (3) 協会は、チームに1日2試合を超えて試合を提供することはできない。

(j) 【Original ⑥】 1日2試合実施する場合の特例

協会は、U-15 カテゴリーの試合で1日2試合実施する場合でも、選手全員の交代を規定している場合等で、かつ1人の選手が1日70分を超えて試合に出場できないように規定し、十分に選手の出場時間を管理する場合は、特例として20分ハーフで実施することができる。

試合中 試合を行う方法

第10条 不正なプレー

10.4 危険なプレー、不行跡【7人制共通】

- (t) 【Original ⑦】 ローヘッド：いずれのプレーヤーもモールへの参加を含む全ての局面において頭を肩や腰より低く(ローヘッド)した状態でプレー

をすることはできない。

具体的にはボールの争奪、及びタックル時、ボールを確保する行為、ラックの形成前からラック・モール形成時を含めた全てのプレーにおいて、故意、あるいは継続的に顔を下に向け、肩や腰よりも頭を下げたままプレーすることをいう。

罰： ペナルティキック

(u) **危険なタックル：【7人制共通】**

いずれのプレーヤーも手だけでジャージをつかんで相手側プレーヤーを振り回してはならない。

罰： ペナルティキック

10.5 措置

- (a) いかなるプレーヤーも、不正なプレーに関する競技規則の反則を犯した場合、注意、警告による以下に定める時間の一時的退出、または退場のいずれかを命じられる。

一時的退出の時間は、U-15 カテゴリーの前後半 20 分ずつの試合では 5 分間とし、前後半 17 分ずつの試合の場合、および U-14、U-13 カテゴリーの前後半 15 分ずつの試合では 4 分間とする。

試合の再開

第 19 条 タッチおよびラインアウト

19.8 ラインアウトの形成

- (a) ラインアウトに並ぶプレーヤー（ラインアウトプレーヤー）は双方 2 人～5 人とする。

罰： 15 m ライン上でフリーキック

- (b) WR 競技規則に準じ、ボールの投入側がラインアウトに並ぶ最大の人数を決定する。

罰： 15 m ライン上でフリーキック

19.10 ラインアウトにおける制限 【7人制共通】

- (d) **リフティングおよびサポート**：プレーヤーがリフティングおよびサポート、またはいずれか一方を行う場合、ジャンプする味方のプレーヤーを持ち上げるか、サポートする場合は、後方、正面からを問わずにジャンプするプレーヤーのパンツ（ショーツ）を順手で握ってサポートしなければならない。なお、プレーヤーの太ももを直接サポートすることはできない。サポート、又はリフティングは後方から 1 名、正面から 1 名の計 2 名で行う。

罰： 15 m ライン上でフリーキック

(g) プレーヤーを地上におろす：【7人制共通】

跳び上がる味方のプレーヤーをサポートするプレーヤーは、どちらかの側のプレーヤーがボールを獲得したらすぐに、そのプレーヤーを下さなければならない。しかし、サポート、又はリフティングは、跳び上がったプレーヤーの両足が完全に着地するまで続けなければならない。

罰： 15 mライン上でフリーキック

第20条 スクラム

定義

スクラムの目的は、軽度の反則あるいは競技の停止があった後、早く、安全に、公平に試合を再開することである。

スクラムは、フィールドオブプレーにおいて、お互いにバインドして2列になった5人ずつのプレーヤーによって形成され、双方のフロントローは頭を交互に組み合う。

組み合うことによってトンネルが形成され、そこに、双方のフロントローが左右どちらか片方の足でフッキングすることによりボールを獲得するよう、スクラムハーフがボールを投入する。

スクラムの中央の線がゴールラインから5メートル以内にはあってはならない。

スクラムはタッチラインから5メートル以内では形成されない。

トンネルとは、双方の、フロントローの間の空間をいう。

スクラムハーフとは、双方の、スクラムにボールを投入するプレーヤーをいう。

スクラムの中央の線とは、トンネル内の、双方のフロントローの肩の接点で作られた線の真下の地上に想定された線をいう。

フッカーとは、双方のフロントローの中央のプレーヤーをいう。

プロップとは、フッカーの両側のプレーヤーをいう。左側のプロップをルースヘッドプロップ、右側のプロップをタイトヘッドプロップという。

ロックとは、2列目に位置し、2列目の左右のプレーヤーをバインドし、フッカーおよびプロップを押す2人のプレーヤーをいう。

注：U-15ジュニアラグビー競技では、フランカー2人、ナンバーエイト1人は存在しない。

20.1 スクラムの形成

- (e) プレーヤーの数： スクラムの形成は、双方それぞれ5人のプレーヤーによらなければならない。その5人のプレーヤーは、スクラムが終了するまで継続してバインドしていなければならない。双方のフロントローはいかなる場合でも3人のプレーヤーでなければならない。2人のロックが2列目を形成しなければならない。

いかなる場合もこの人数を超えるか、又は減らすことはできない。

罰： ペナルティキック
 = 19歳未満標準競技規則＝

(f) ノンコンテストスクラムの適用：【7人制共通】

以下の場合、安全を優先し、ノンコンテストスクラムを適用する。
 フォワードプレーヤーが負傷し、退場による交替、または負傷による応急処置や治療が終わるまでの一時的交替が必要な場合で、出場するプレーヤーにフォワードプレーヤーがいないか、フォワードの訓練を受けていない場合は、その後に生じたスクラム、或いは負傷したプレーヤーがゲームに復帰するまでの間に生じたスクラムについてはこれを行わず、ノンコンテストスクラムとする。

- ノンコンテストスクラムにおいては、
- ・ボールを取り合わない
 - ・ボール投入側が必ずボールを獲得する
 - ・双方ともスクラムを押しはならない

(k) 【Original ⑧】 安全でしっかりとしたスクラムの形成：【7人制共通】

スクラムは以下の各カテゴリーのプレーヤーのスキルの習熟度に応じて安全でしっかりとしたスクラムを形成しなければならない。

- (1) U-15 カテゴリーでのスクラムは安全を確認した上で、しっかりと組み合い、かつ体重をかけあう。
- (2) U-14、U-13 カテゴリーのスクラムは、安全を確認した上で、しっかりと組み合う。但し、レフリー又は主催者は、安全が確保できないと判断した時は、選手の習熟度に対応したスクラムとすることができる。

罰： フリーキック

20.3 スクラムのバインディング

- (f) 他のすべてのプレーヤー（ロックのバインド）：ロックは、スクラムが組まれる前に、一方の腕を味方ロックに必ずバインドし、かつ外側の腕は必ず前にいるプロップの腰をまくようにバインドしなければならない。同時に膝を上げて、頭を落とさないようにフロントローの間に確実にに入れて組まなければならない。プロップ以外のプレーヤーは、相手側のプレーヤーをつかんではならない。

罰： ペナルティキック

- (g) ロックは、規定どおりバインドしていたとしても、腰や膝を落としたり、外側に開いたり、あるいはスクラムの角度を変えることはできない。当然に相手側のスクラムハーフのプレーを妨害してはならない。

罰： ペナルティキック

20.9 スクラムにおけるその他の制限 【7人制共通】

= 19 歳未満標準競技規則 =

- (j) **スクラムの移動**： スクラムを相手ゴールラインに向かって押すことは反則である。

故意ではなく不可効力によってスクラムが1メートル以上移動してしまった場合は、元の位置に戻して再びスクラムを組む。

なお、U-15 カテゴリーにおいて、ボールが投入され、フッカーがフッキングする際に、故意ではなくボール投入側のスクラム位置が、若干（10～20センチ以内程度）前に動いた場合は、そのままスクラムを継続する。

罰： フリーキック

20.10 スクラムの終了

- (c) **最後尾のプレーヤーがバインドをはずした場合**：スクラムの最後尾のプレーヤーとは、スクラムに参加しているプレーヤーの中で、足が自陣のゴールラインに最も近いプレーヤーをいうが、本競技規則では、ロック2名をいう。スクラムの最後尾のプレーヤーが、その足もとにボールがある状態で、バインドをはずしてボールを拾い上げることによってスクラムを終了することはできない。

罰： ペナルティキック

- (d) **【Original ⑨】 故意のプレーの禁止**：故意にスクラムの中にあるボールをプレーヤーが足で最後尾のプレーヤーの横のスクラム外にボールを出すことによって、スクラムを終了させ、最後尾のプレーヤーがボールを拾い上げることはできない。

罰： ペナルティキック

- (e) **【Original ⑩】 スクラム終了後の最後尾のプレーヤーのプレー**：故意ではなく、スクラムのトンネル以外からボールがスクラム外に出たことによってスクラムが終了し、その後最後に最後尾のプレーヤーが最初にボールを拾い上げることはできる。

20.12 スクラムにおけるオフサイド 【7人制共通】

- (a) スクラムが組まれるとき、スクラムにボールを投入しない側のスクラムハーフの立つべき位置は、ボールを投入しようとするスクラムハーフと同じ側のスクラムのセンターラインを越えない場所か、または他のプレーヤーに指定されているオフサイドラインの後方である。

罰： ペナルティキック

- (b) **スクラムハーフのオフサイド**：ボールを獲得した側のスクラムハーフは、ボールがスクラムの中にある間、両足をボールより前に出した場合、ある

いはスクラムのセンターラインを越えた場合はオフサイドとなる。但し、ボールをスクラムに投入する場合にスクラムの中央線上、スクラムの地点から少なくとも1メートル離れた場所に立つことを除く。

罰： ペナルティキック

- (c) ボールを獲得しなかった側のスクラムハーフは、ボールがスクラムの中にある間、片足でもスクラムのセンターラインを越えるか、あるいは片足でもボールより前に出した場合にはオフサイドになる。

罰： ペナルティキック

第23条 その他の規定【7人制共通】

本U-15ジュニアラグビー競技規則に加えて、JRFUが規定している以下の規則、基準等を準拠する。

- 1) 「U-15 ジュニアラグビー安全競技基準」
- 2) 「U-15 ジュニアラグビー中学生選手服装規程」

【7人制ラグビー標準競技規則】

U-15 ジュニアラグビーでは、「7人制ラグビー競技」を実施することができる。

「WR 競技規則」（「19歳以下標準競技規則」、「7人制標準競技規則」を含む）、及びJRFUが制定した「U-15 ジュニアラグビー競技規則【7人制共通】項目」に以下の変更（或いは追加）を加えたものを、7人制標準競技規則とする。

5.1 試合時間

7人制における試合時間は14分に加えて、失われた時間とする。試合は競技時間7分以内ずつ、前後半に分けて行う。

但し、「WR 7人制競技規則」の例外措置である大会決勝戦の試合時間の規定については、これを適用しない。

5.7 その他、時間に関する規則

- (i) **【Original ⑩】** 1日あたりの試合制限
 - (4) 選手は7人制競技においては、1日3試合を超えて試合を行ってはならない。
 - (5) 協会は7人制競技においては、1日最大3試合を超えて試合を提供することはできない。

以上

附記

【実施時期について】

平成27年改訂版U-15ジュニアラグビー競技規則は、原則として平成27年4月1日から適用します。

以上